

I 結果の概要

1 本県の課題

各教科区分に共通する課題

記述式の正答率が低い

無解答率が高い

	前回の課題	今年度の課題	詳細は
小学校国語	H26◆記述式（文章の構成や記述方法などの条件に従って書く）	◆記述式（文章の構成や記述方法など複数の条件に応じて書く）	P 12 へ
小学校算数	H26◆数と計算（四則計算）・数量関係（四則計算）	◆数と計算（小数の減法，四則計算）	P 30 へ
小学校理科	H24◆観察・実験結果の分析・説明◆観察・実験方法の検証・改善	◆観察・実験器具の操作技能	P 50 へ
児童質問紙	H26◆算数への関心等 ◆学習習慣	◆算数への関心等 ◆学習習慣	P 72 へ P 81 へ
小学校 学校質問紙	H26◆個に応じた指導 ◆学力向上に向けた取組・指導方法◆家庭学習	◆個に応じた指導 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆家庭学習 ◆学力向上に向けた全国学力・学習状況調査の結果の活用	P 82 へ P 87 へ P 89, 94 へ P 102 へ
中学校国語	H26◆漢字の書き◆科学的事象について理由を説明する◆表現の工夫と効果	◆漢字の書き ◆記述式（複数の資料を意図的に関係付けて記述する）	P 20 へ
中学校数学	H26◆資料の活用	◆資料の活用	P 40 へ
中学校理科	H24◆基礎的・基本的な知識・技能◆観察・実験結果の分析・説明改善◆観察・実験方法の検証・改善◆生物的領域	◆記述式 ◆物理的領域・化学的領域 ◆基礎的・基本的な知識・技能の活用	P 58 へ
生徒質問紙	H26◆総合的な学習への関心等◆学習習慣	◆理科への関心等 ◆総合的な学習への関心等 ◆学習習慣	P 73 へ P 75 へ P 81, 94 へ
中学校 学校質問紙	H26◆家庭学習	◆家庭学習 ◆学力向上に向けた全国学力・学習状況調査の結果の活用	P 89, 94 へ P 102 へ

*本冊子における千葉県・全国の平均正答率及び平均正答数は、公立学校に在籍する児童生徒のものである。

2 教科区分別調査結果

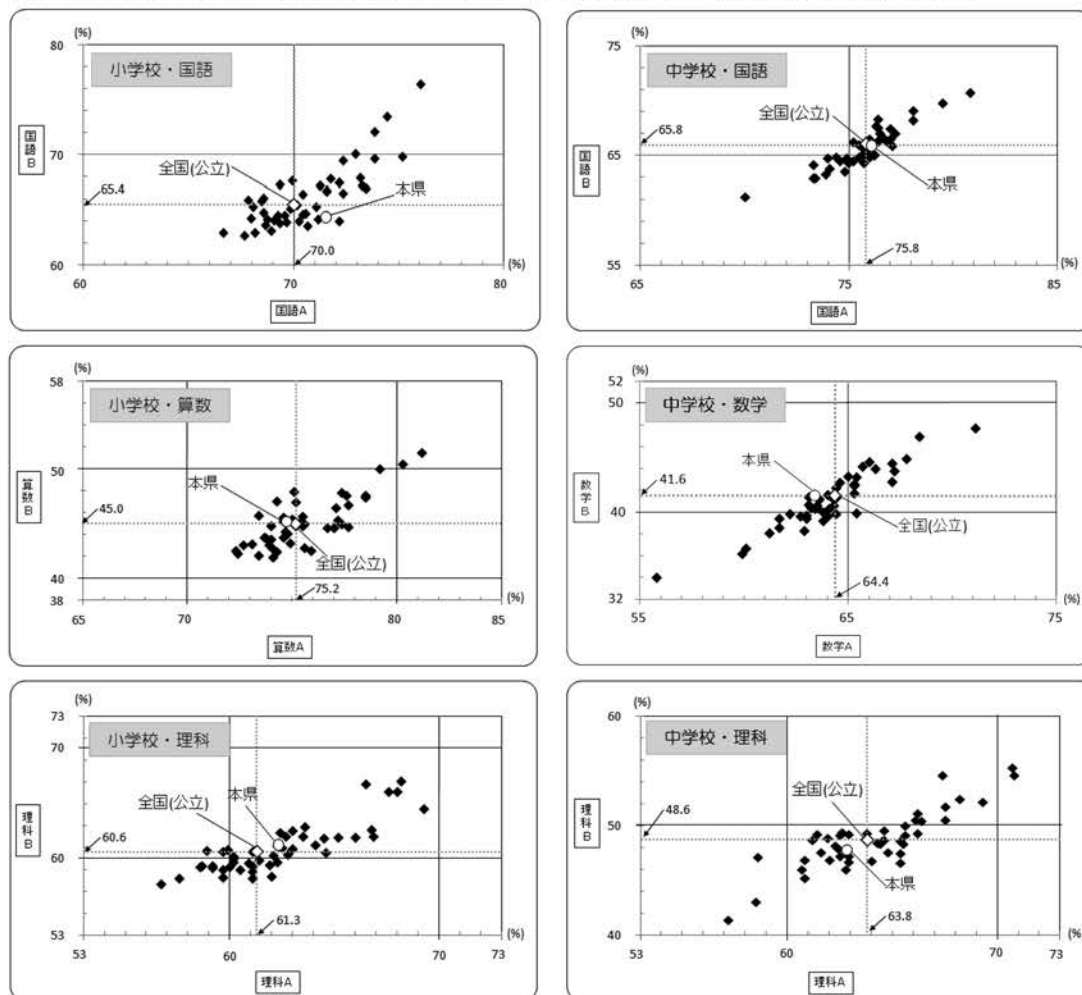
*左の数値は平均正答率（％），右の（ ）の数値は平均正答数である。

小学校	千葉県	全国	中学校	千葉県	全国
国語 A (14 問)	71.5 (10.0)	70.0 (9.8)	国語 A (33 問)	76.0 (25.1)	75.8 (25.0)
国語 B (9 問)	64.5 (5.8)	65.4 (5.9)	国語 B (9 問)	65.7 (5.9)	65.8 (5.9)
算数 A (16 問)	74.7 (12.0)	75.2 (12.0)	数学 A (36 問)	63.4 (22.8)	64.4 (23.2)
算数 B (13 問)	45.1 (5.9)	45.0 (5.9)	数学 B (15 問)	41.6 (6.2)	41.6 (6.2)
理 科 (24 問)	61.9 (14.9)	60.8 (14.6)	理 科 (25 問)	52.0 (13.0)	53.0 (13.3)

教科に関する調査結果について、本県の平均正答率及び平均正答数は、概ね全国平均と同程度である。

3 本県及び各都道府県の状況（平均正答率の分布）

下のグラフは、教科に関する調査結果について、主として「知識」に関する問題（「A」問題）の正答率を横軸に、主として「活用」に関する問題（「B」問題）の正答率を縦軸にとり、全国と各都道府県のそれぞれの平均正答率をプロットしたものである。なお、理科は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題とを分け、それぞれを教科区分として分析している。グラフ上の点（◆）は、他都道府県の結果を示す。



本県は、小学校・国語 A が全国を上回り、中学校・理科 B が全国を下回り、他は全国と同程度であった。

4 教科に関する調査

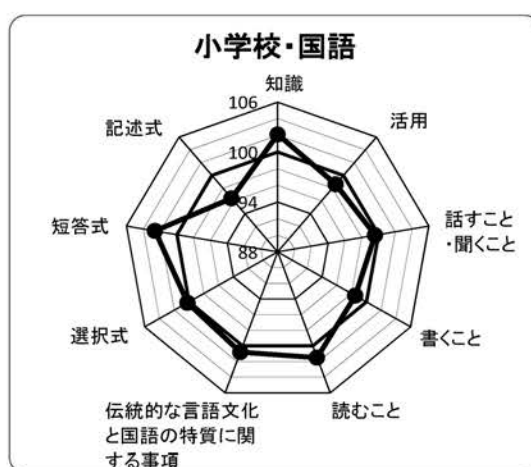
(1) 国語

【小学校】

知識（国語 A）が全国平均を上回っており、特に「読むこと」の領域が全国より高い。一方、活用（国語 B）は全国平均に達しておらず、特に「書くこと」の領域と問題形式の「記述式」が全国平均を下回り、課題である。

平均正答率（％）

小学校	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
国語 A	71.5	70.0	1.5
国語 B	64.5	65.4	-0.9



知識／活用	知識	102.1
	活用	98.6
領域等	話すこと・聞くこと	99.6
	書くこと	98.5
	読むこと	101.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	100.8
問題形式	選択式	100.2
	短答式	102.6
	記述式	96.4

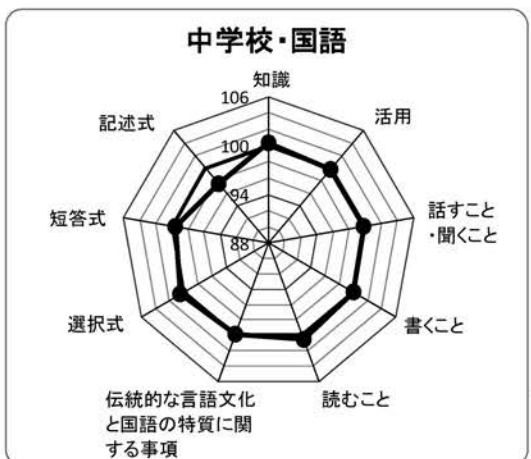
※全国（公立）を 100 として千葉県（公立）の結果を相対的に表している。

【中学校】

知識（国語 A）、活用（国語 B）ともに全国と同程度である。領域等も全て全国と同程度であるが、「漢字を正しく書く」学習に力を入れる必要がある。また、問題形式の「記述式」が全国平均を下回り、課題として挙げられる。

平均正答率（％）

中学校	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
国語 A	76.0	75.8	0.2
国語 B	65.7	65.8	-0.1



知識／活用	知識	100.3
	活用	99.8
領域等	話すこと・聞くこと	99.8
	書くこと	100.0
	読むこと	100.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	99.9
問題形式	選択式	100.5
	短答式	99.6
	記述式	97.5

※全国（公立）を 100 として千葉県（公立）の結果を相対的に表している。

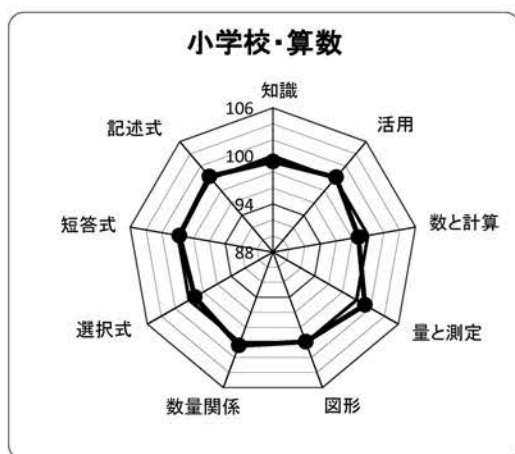
(2) 算数・数学

【小学校】

「量と測定」が全国平均をやや上回り、「数と計算」がやや下回り、他は全国と同程度である。「末尾の位のそろっていない小数の計算」や「計算の結果を見積もる」学習に力を入れる必要がある。

平均正答率（％）

小学校	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
算数A	74.7	75.2	-0.5
算数B	45.1	45.0	0.1



知識／活用	知識	99.3
	活用	100.2
領域	数と計算	98.8
	量と測定	101.2
	図形	99.9
	数量関係	100.4
問題形式	選択式	99.2
	短答式	99.8
	記述式	100.3

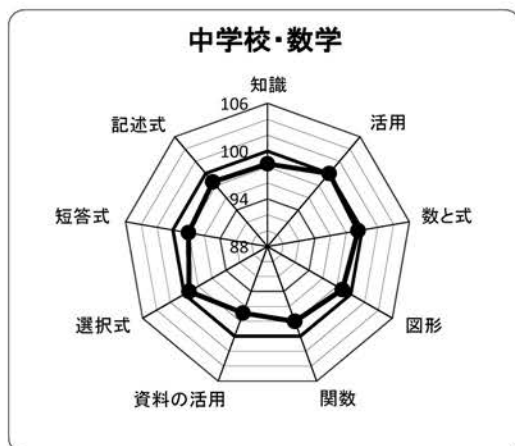
※全国（公立）を100として千葉県（公立）の結果を相対的に表している。

【中学校】

知識（数学A）が全国より低く、全ての領域・問題形式で全国平均に達しなかった。領域では「資料の活用」が全国平均を下回り、継続した課題である。無解答率が全国平均を上回る設問が多く見られる。

平均正答率（％）

中学校	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
数学A	63.4	64.4	-1.0
数学B	41.6	41.6	0.0



知識／活用	知識	98.4
	活用	100.0
領域	数と式	99.5
	図形	98.8
	関数	98.0
	資料の活用	96.9
問題形式	選択式	99.3
	短答式	98.0
	記述式	98.6

※全国（公立）を100として千葉県（公立）の結果を相対的に表している。

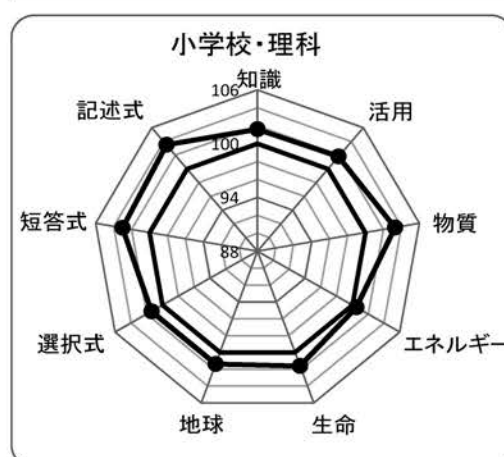
(3) 理科

【小学校】

知識、活用ともに全国と同程度である。「物質」の領域は全国平均を上回り、「生命」「地球」の領域はやや上回った。問題形式では、「短答式」「記述式」が全国平均を上回った。

平均正答率（％）

小学校	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
知識	62.3	61.3	1.0
活用	61.6	60.5	1.1



知識／活用	知識	101.6
	活用	101.8
領域	物質	103.3
	エネルギー	100.5
	生命	101.6
	地球	101.4
問題形式	選択式	101.4
	短答式	103.0
	記述式	103.5

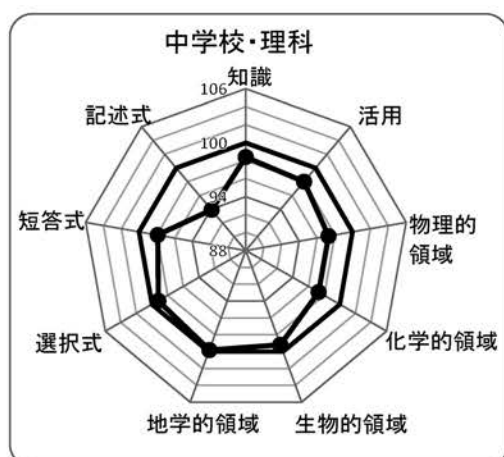
※全国（公立）を100として千葉県（公立）の結果を相対的に表している。

【中学校】

知識、活用ともに全国平均に達していない。「物理的領域」「化学的領域」が全国平均を下回った。問題形式では、「記述式」が全国平均を大きく下回り、無解答率の高い設問があるなど課題が見られる。

平均正答率（％）

中学校	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
知識	62.8	63.8	-1.0
活用	47.8	48.8	-1.0

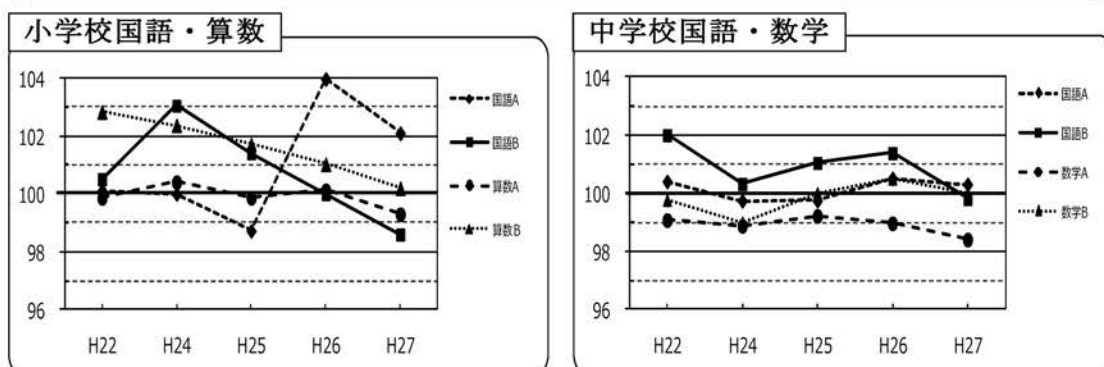


知識／活用	知識	98.4
	活用	98.0
領域	物理的領域	97.3
	化学的領域	97.3
	生物的領域	99.2
	地学的領域	99.8
問題形式	選択式	99.2
	短答式	97.9
	記述式	93.9

※全国（公立）を100として千葉県（公立）の結果を相対的に表している。

(4) 平均正答率（全国比）の推移

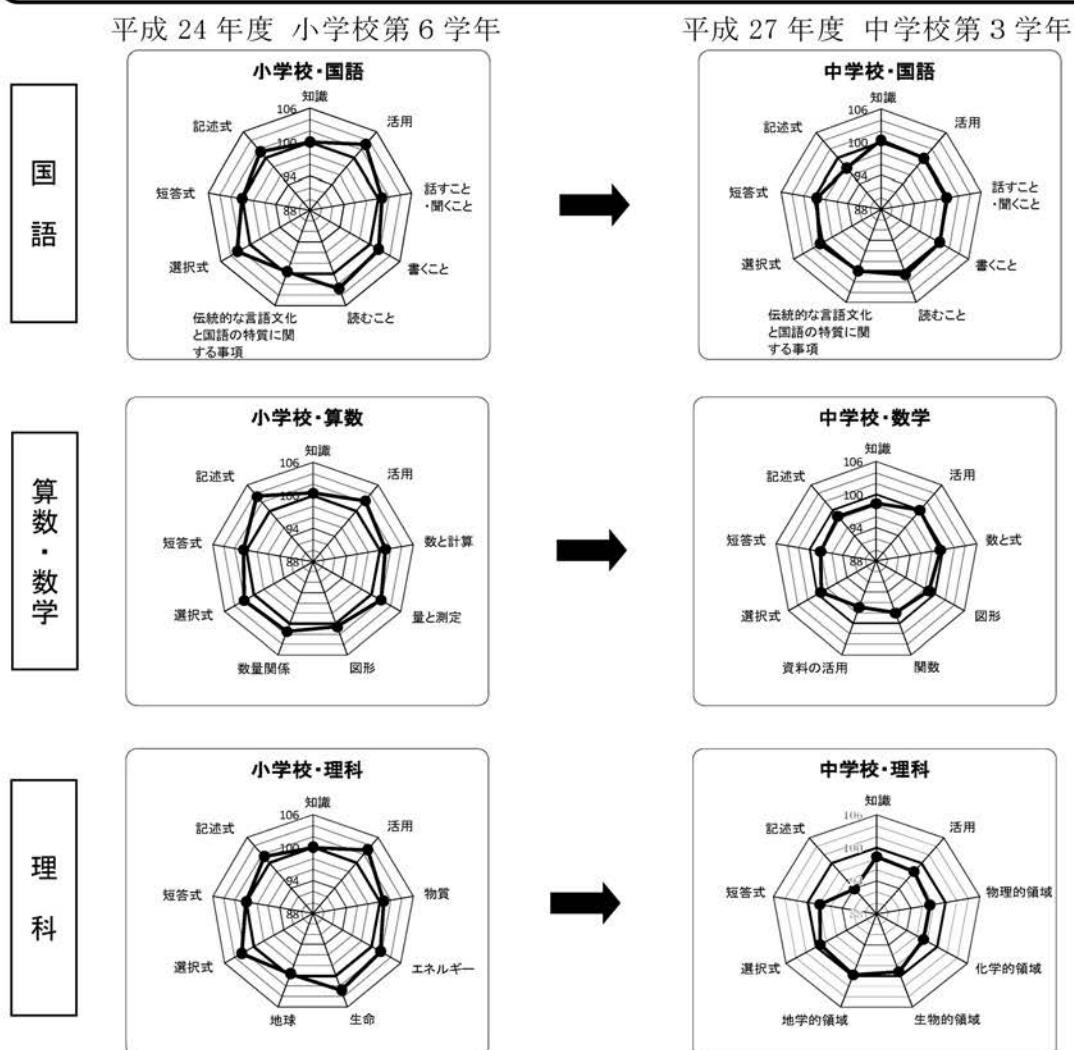
小学校においては、特に「B」問題が低下傾向にあり、中学校においては、数学Aが全国平均に達しない状況が続いている。また、小中学校ともに、昨年度からは全て低下している。



(5) 3年前の小学6年時と現中学3年時との比較

＜平成24年度の小学校第6学年と平成27年度中学校第3学年との比較＞

各教科とも、中学校になると千葉県の実力が全体的に小さくなっており、「知識」よりも「活用」の低下が目立つ。また、領域・問題形式は、ほぼ全ての項目で低下しているが、特に「記述式」が著しく低下している。



5 質問紙調査に関する調査

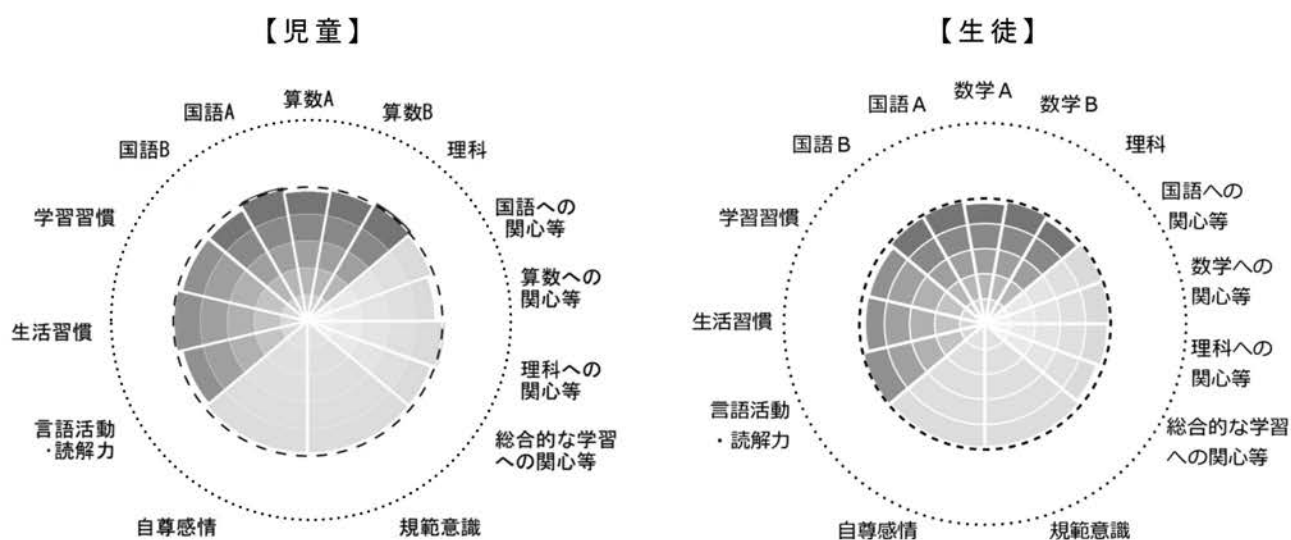
※チャート図は、千葉県（公立）の調査結果について、全国（公立）を母集団として標準化したものである。内側の点線が全国平均を表している。

※◇は成果、◆は課題を示している。

（１）児童生徒質問紙調査

全体的に、児童生徒ともに全国と同様の状況である。

領域別に見ると、児童は「算数への関心等」「言語活動・読解力」、生徒は「総合的な学習への関心等」「生活習慣」が全国を下回っている。また、児童生徒ともに「学習習慣」が平均を下回っており、継続した課題となっている。



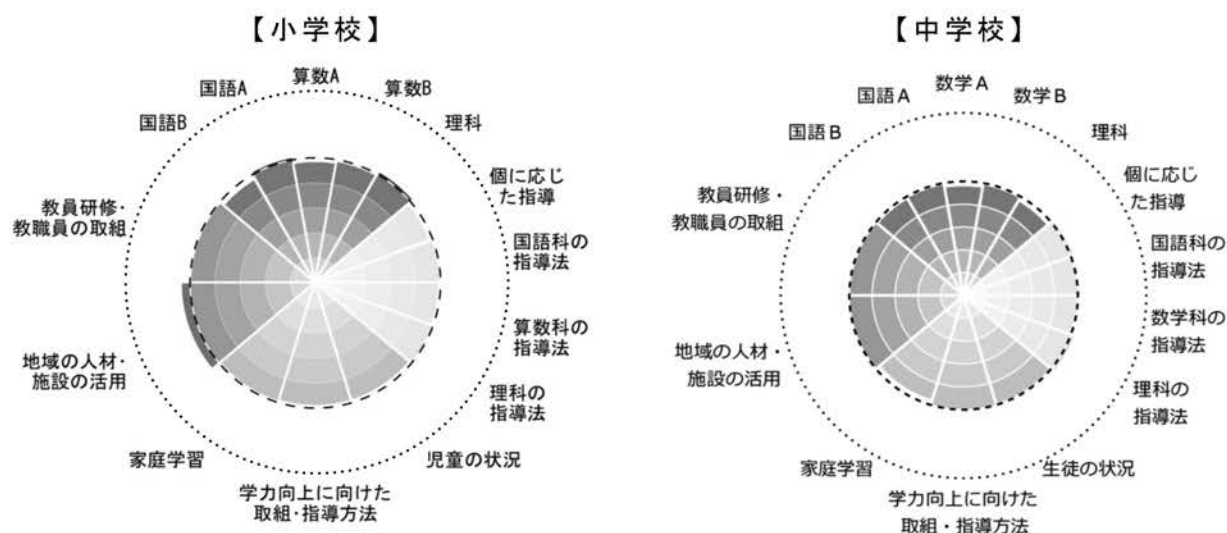
領域名		対応する質問番号	成果と課題
学習に対する 関心・意欲・ 態度	国語への関心等	48～56	◇「国語・理科の勉強が好き」な児童の割合は、全国を上回っている。 ◇「読書が好き」な生徒の割合は、全国を上回っている。 ◆児童の「算数への関心等」は、10項目中9項目で全国を下回っている。 ◆生徒の「総合的な学習への関心等」は、2項目とも全国を下回っている。
	算数・数学への関心等	58～67	
	理科への関心等	69～76, 78～81	
	総合的な学習への関心等	36, 37	
規範意識・ 自尊感情	規範意識	32～35	児童生徒ともに全国と同程度である。
	自尊感情	4～6, 9	
学習の基盤となる活動・習慣	言語活動・読解力	7, 8, 38, 39, 44～46	◆児童の「言語活動・読解力」は、8項目全て全国を下回っている。 ◆生徒の「生活習慣」は、3項目全て全国を下回っている。 ◆「学習習慣」の4項目について、児童は全て、生徒は3項目で全国を下回っている。
	生活習慣	1～3	
	学習習慣	20～23	

(2) 学校質問紙調査

全体的に、小中学校ともに全国と同様の状況である。

領域別に見ると、小学校では、「地域の人材・施設の活用」が全国を上回り、「個に応じた指導」が下回っている。中学校では、「理科の指導法」が全国を上回り、「家庭学習」が下回っている。

小中学校ともに全国学力・学習状況調査の結果の活用に課題が見られる。



領域名		対応する質問番号	成果と課題
教科指導	個に応じた指導法	55～58	◇中学校の「数学のチームティーチング」「理科の観察実験補助員の設置」は、全国を大きく上回っている。 ◆小中学校ともに「習熟度別の少人数指導」は、2項目とも全国を下回っている。
	国語科の指導法	59～64	
	算数・数学科の指導法	65～68	
	理科の指導法	小 70～78 中 69～77	
学力向上	児童・生徒の状況	16, 17, 19～21	◇中学校の「朝の読書」「授業でノートに学習の目標とまとめを書く」は、全国を上回っている。 ◇「長期休業中の理科の課題を与える」は、小中学校ともに全国を上回っている。 ◆小学校の「放課後や長期休業日の補充的学習サポート」は、全国を大きく下回っている。 ◆中学校の「総合的な学習の指導」は、全国を下回っている。 ◆「家庭学習」については、小中学校ともにほとんどの項目で全国を下回っている。
	学力向上に向けた取組・指導方法	24～45	
	家庭学習	小 89～99 中 87～97	
学校経営	地域の人材・施設の活用	小 81～83, 85～88 中 80～86	◇小学校の「職場見学・職場体験」は、全国を大きく上回っている。 ◆「授業研究を伴う校内研修」は、小中学校ともに全国を大きく下回っている。
	教職員研修・教職員の取組	小 100～112 中 98～110	
全国学力・学習状況調査の結果の活用		50～54	◆小中学校ともに5項目全て全国を下回っている。

